

民主島根

2016年
9.11
第1270号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

松江、出雲、雲南で国政報告会を開催

大平 衆議員「市民と野党の共闘さらに」

雲南決起集会 上代かずみ市議予定が決意表明



日本共産党後援会決起集会

団結ガンパローで決意を固め合う(左から)上代、大平氏(3日、雲南市)

日本共産党の大平喜信衆議員は3、4日の両日、松江、出雲、雲南の3市で開かれた国政報告会や党後援会決起集会などで訴え、「参院選での市民と野党の共闘をさらに前に進めて、来たるべき衆院選で自公を少数に追い込もう」と呼びかけた。(2面関連)

時国会に向け、「参院選で改選3議席から6議席へ倍増し、衆参35議席となった党国会議員団で、くらしを守るために全力をあげる」と語りました。上代かずみ雲南市議予定候補は「安倍政権の政

県・JR西に「三江線の存続を」党県議員が申し入れ

JR西日本が広島県三次市と島根県江津市を結ぶ三江線の全線廃止を表明(1日)した問題で、日本共産党島根県委員会は2日、溝口善兵衛県知事とJR西日本米子支社を訪れ、存続させるよう申し入れました。溝口知事は「一番大事なのは沿線市町の意向で

治は戦争法をはじめ、市民のくらしと命を脅かすことばかりだ」と指摘し、「医療や介護、教育の充実のために、みなさんとしっかり力を合わせて頑張ります」と決意表明しました。

あり、県も緊密に連携しながら、よく協議し、対応していきたい」と答えました。(写真上)



党議員らは、公共交通の存廃は過疎化や地域の高齢化対策、人口などに



大きな影響を及ぼすと指摘し、「採算性をもって安易に結論づけるべきでは

なく、事業者、利用者、住民、自治体間での十分な議論を経て、理解と納得のもとに結論が出されなければならない」と強調しました。

JR西日本山陰地域振興本部の和田昇司副本部長は「利用促進に取り組んできたが、利用者への減少に歯止めがかからず、拠点間を大量輸送する鉄道の特性を發揮できていない」と述べました。(写真下)



松江革新懇 第4回総会 & 記念講演開く

住民目線の会 福島氏が「参院選の芽を大きな木に」と講演

いくために」と題して記念講演しました。(写真)

鼓動

いつの間にかセミの喧騒が消え、虫の音に変わり、周りには秋の気配が漂うようになった。それにしても今年の夏も暑かった。気温が暑いだけでなく、オリンピック報道で世相が熱かったせいもある▼地球の裏側での開催で、深夜のテレビ中継となり、寝不足気味の方も多かったのではないだろうか。日本は、過去最多のメダルを獲得。ひとえに、選手たちの汗と涙の努力のたまものであり、参加したすべての選手と関係者の奮闘を讃えたい▼ところで、今回の五輪報道を見ていて気になったことがある。それは、いつも増して「日本丸」のイメージアップが強く出ていたことである。NHKの解説委員は、オリンピックのメリットに「国威発揚」を指摘。また、あるメダリストは「メダルなしで日本に帰れない」との思いでがんばった」とコメントした。選手が「国を背負って」奮闘する気持ちを否定するつもりはないが、目に見えない周りからの国威発揚の圧力を感じた▼ある新聞で、作家の中島京子さんが「オリンピック報道がやたらと『戦争っぽかった』」と指摘し、「日本がやりました」「日本が勝ちました」というけれど、日本が勝ったのではなく、勝ったのは伊調馨とかベイカー・リーとか個人だろう。オリンピックは戦争じゃないんだから」と書いていた▼おそらく、4年後の東京五輪に向けてこの傾向はますます過熱化するのは危惧する。1世紀前のオリンピックの際に提唱された「勝つことではなく参加することに意義がある」との理想はどこに行ってしまったのだろうか。(吉)

住民目線で政治を変える会・山陰 キックオフ集会

新たな一步をみんなの力で 後藤県委員長が決意を述べる



住民目線で政治を変える会・山陰（福島浩彦共代表）は8月27日、米子市で「キックオフ集会」を開きました。集会では、参院選で共

闘した日本共産党、民進党、社民党、新社会党の代表がそれぞれ決意表明。日本共産党からは、後藤勝彦島根県委員長が訴えました。（写真）

後藤氏は、全国32の1人区のうち11選挙区で野党統一候補が勝利したことは、極めて大きな成果だと強調し、「このことを確信にして今後のたたかいに向かつていきたい」と表明しました。

参院選鳥取・島根選挙区で奮闘した福島氏は「住民目線の会は引き続き、新しい芽をしっかりと育てて

地域の話題

大田 落石事故対策を大西議員が質問

大西議員―本年5月4日、邑南町の県道で落石による死亡事故が発生した。自治体の役割は、住民のくらしと安全を守ることである。

再発防止に向けて、道路斜面の総点検と地域住民や地元建設業者と共同して、地域密着型の管理体制をつくることが重要だと考えるが、所見は。

部長―道路防災総点検で89カ所の危険箇所を確認した。そのうち、23カ所に対策工事を実施している。

地域密着型の管理体制については、体制の構築に努めていく。（大田

江津 平和展・上映会 新婦人が開催

新日本婦人の会江津支部は8月25～31日まで平和展を、28日に映画「戦場ぬしみ」の上映会を開催しました。平和展は「風のえんがわ」ギャラリーで開催。この場所での開催は、今年で3回目です。

ギャラリーに足を踏み入れると、松江市在住の西尾幸子さんが若い世代へ語りかけます。

来場者からの一口メッセージには、「モンペと防空頭巾から開放され、ワンピースで見上げた青い空。あの時の気持ちを今も忘れません」などの感想が寄せられま

本川 三江線の存続を山口議員が要求

山口議員―JR三江線の存続は、地域振興と地方創生に欠かせない。JR西日本の責任と経済負担による存続が必要と考える。この間、JR西日本自身も、廃止の提案は赤字が原因ではないと言っている。一度廃止された鉄道は戻らない。町として、存続に向けた取り組み、情報発信をお願いしたい。

町長―JR西日本自身が、存続する方法を深く議論してほしいというところを検討会に投げかけている。検討経過を踏まえて、次のステップを踏んでいきたいと考えている。（「民報かわもと」より）

消費税10%増税中止を 県各界連が署名・宣伝行動



「消費税廃止各界連絡会」は8月24日、松江市で消費税10%増税中止を訴えました。

市内の子ども連れの女性は「高齢者の医療費窓口負担を増やそうとしたり、介護保険から軽度の人を外そうとするのおかしい」

と署名しました。（写真）

また、市内の60代の女性は「お金持ちにもつと負担をせよ」というベキ」と話しました。

大家英司事務局長は「消費税を増税しなければ、社会保障が悪くなるというのには、真つ赤なウソです。いま、必要な景気対策は、庶民のふところを直接あたためて、国内経済の循環を良くすることです」と呼びかけました。

世論と運動こそが政治を動かす

「給付型奨学金」の実現へ大きな一歩

8月2日に閣議決定された28兆円規模ともいわれる「経済対策」は、リニア新幹線への巨額の公的資金の投入など、大型公共事業のバラマキが中心

の、全体としては決して認められるものではない。せんが、その中でも国民の切実な実態を解決する一歩となる内容がいくつか盛り込まれています。

例えば「給付型奨学金」については、2017年度予算編成過程を通じて制度内容について結論を得、実現する」と書かれることになりました。



衆議院議員 大平よしのぶ

大平よしのぶ

アツく やさしく

給付の在り方や金額などが最終的にどうなるか、引き続き注視が必要ですが、振り返れば、今年1月の段階では、わが党の田村智子参院議員の質問に対して、麻生財務大臣は「給付型奨学金は新たな財政支出であり、公平性の問題からも適切ではない」と言



っていったものでした。何よりこの間、全国で300万筆を超える署名が集まるなどの大きな世論と運動が力となっていました。文科省の担当者いわく、「あの署名がうちの部屋に置かれる。いまだここに置かなくて頭を抱えて考えている。たいへんなプレッシャーだ」とのこと。

署名の力の大きさ、市民の世論と運動こそが政治を動かすということを、あらためて痛感しました。

その他にも、年金の受給資格年数を25年から10年へと短くさせたり、額はまったく足りませんが、介護士・保育士の待遇改善、給与引き上げなども盛り込まれています。

もちろん、いざれも不十分であり、さらなる改善、拡充が求められていますし、一方では社会保障制度の連続改悪もねらわれています。一つひとつの大事な成果を確信にもしながら、引き続き、大いに声をあげ、世論と運動を広げていこうではありませんか。

（写真は、全国生活と健康を守る会の省庁要請行動に同席する大平氏（右から2人目）ら8月10日）

案内板

安保関連法（戦争法）廃止！ 9.19島根集会

とき 9月19日（月・祝）
16時～集会 16時40分～デモ行進
ところ 松江テルサ前広場
主催：安保関連法（戦争法）の廃止を求める
しまね総がかり行動実行委員会